

フロンティアスクール中間報告書

都道府県名

新潟県

学校の概要（平成15年4月現在）

|     |           |    |    |    |    |    |      |     |     |
|-----|-----------|----|----|----|----|----|------|-----|-----|
| 学校名 | 新潟市立大野小学校 |    |    |    |    |    |      |     |     |
| 学年  | 1年        | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 特殊学級 | 計   | 教員数 |
| 学級数 | 3         | 3  | 2  | 3  | 2  | 3  | 2    | 18  | 26  |
| 児童数 | 79        | 70 | 75 | 91 | 73 | 96 | 2    | 486 |     |

研究の概要

1. 研究主題

「確かな学力を身に付け、生き生きと学ぶ子供の育成」  
～ 評価を生かした学習指導のあり方～

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

第1学年から第6学年・算数科

全国標準学力検査（NRT）による実態分析の結果、算数科の数値は年々向上してきて全国平均に達しているものの、新潟市内平均と比較するとやや低い傾向が見られるため。

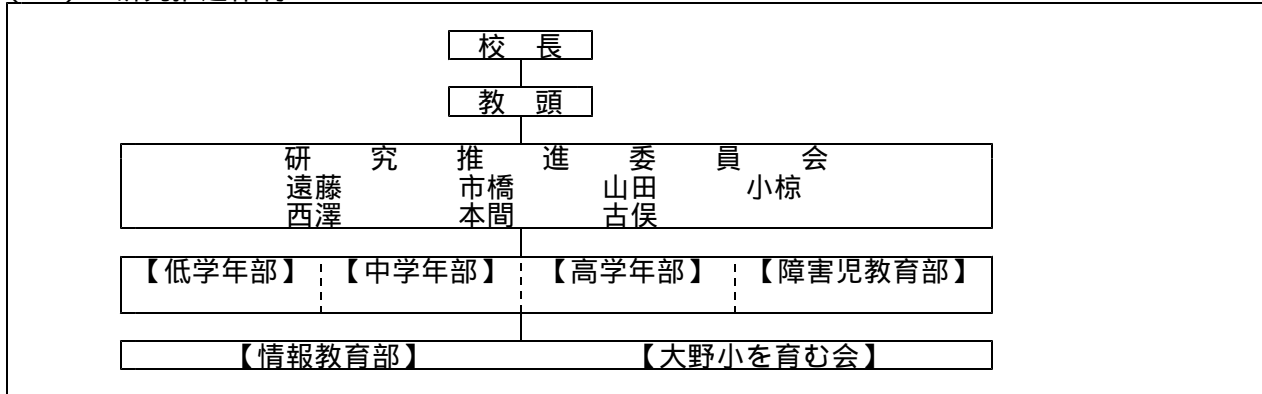
(2) 年次ごとの計画

|        |  |
|--------|--|
| 平成15年度 | <p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の中で、「分かる」喜びや「できる」実感がもてる子供</li> <li>・既習事項を活用し、自分なりの考えをもち進んで問題解決に取り組む子供</li> </ul> <p>研究の見通し（仮説）</p> <p>一人一人の子供に応じた評価を適切に行い習熟度別指導等を用いて学習指導を改善すれば、子供は確かな学力を身に付けるであろう。</p> <p>研究の内容</p> <p>A 指導方法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の指導計画の中に評価規準及び評価方法，評価基準を明示した評価計画の作成</li> <li>・評価計画を基に児童の学習状況を把握・評価し，指導に生かすための「評価カード（シート）」の開発と工夫</li> </ul> <p>B 学習指導の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価を生かした補充的な学習及び発展的な学習のための教材の工夫</li> </ul> <p>研究の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年部を研修部として，研修を進める。</li> <li>・事前に行う診断的テストにより単元における学力の実態を的確にとらえ，その単元で身に付けさせたい基礎・基本の内容を洗い出す。</li> <li>・それらを身に付けさせ，一人一人の学力を高めていくことができるような教師の働き掛け及び評価のあり方を構想する。【評価の工夫】</li> <li>・研究授業では，評価に基づいた教師の支援や働き掛けがどのように有効に子供に働いたかを抽出児を設定して見取ったり，コースごとに見取ったりしながら検証する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【指導の改善】</p> |
|--------|--|

|        |   |
|--------|---|
| 平成16年度 | <p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の中で、「分かる」喜びや「できる」実感がもてる子供</li> <li>・既習事項を活用し、自分なりの考えをもち進んで問題解決に取り組む子供</li> </ul> <p>研究の見通し（仮説）</p> <p>一人一人の子供に応じた評価を適切に行い習熟度別指導等を用いて学習指導を改善すれば、子供は確かな学力を身に付けるであろう。</p> <p>研究の内容</p> <p>A 指導方法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価方法の研究</li> <li>・子供の自己評価力を高める工夫</li> </ul> |
|--------|---|

- B 学習指導の改善
  - ・評価を生かした補充的な学習及び発展的な学習のための教材の工夫
  - ・少人数指導・習熟度別指導を位置付けた学習指導法の改善
  - ・発展的な課題に向けた事例集の作成
- C 学力を支える基礎的な学習態度や生活態度の育成及び学習規律の確立
  - ・諸調査による児童の学習への意識や生活態度の実態把握と分析
  - ・学習規律やルールの確立
  - ・「学習の手引き」(小学校版)の活用

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- (1) 評価カード(シート)を活用したことにより、一人一人の子供をより正確に見取り、その後の指導に生かすことができるようになった。  
 教師は、評価カード(シート)を作成する時に、子供がどんなつまづきをするかある程度予測し、手立てを工夫することができた。また、子供の学習状況を見取り、個別指導が必要な子供に対して的確に指導できるようになった。
- (2) 習熟度別指導を取り入れるタイミングや単元が分かってきた。  
 今年度実践した授業研究の中から、いくつかの基本パターンを考えることができた。
- パターンA(単元を通して習熟度別指導)  
 主に「数と計算」領域 3年「3けたのひき算」
  - パターンB(単元末に習熟度別指導)  
 主に「数と計算」領域 2年「たし算(2)」 4年「およその数」
  - パターンC(単元末に課題別指導)  
 主に「量と測定」「図形」領域 1年「ひきざん(2)」  
 5年「四角形と三角形の面積」
  - パターンD(単元の途中で習熟度別指導)  
 主に「量と測定」「数量関係」領域 6年「単位量あたりの大きさ」
- (3) 算数科の到達度分布(1学期と2学期の比較)から見える成果  
 市販の単元末テストの結果(到達度A...正答率90%以上, 到達度B...正答率89~60%, 到達度C...正答率59%以下を指す。)  
 到達度Aの児童の割合を目安に指導の成果を確かめている。
- 観点別  
 表の見方; 1学期の結果(%) 2学期の結果(%) \*印データなし

| 《1年生》           | 到達度Aの割合 |     | 到達度Bの割合 |     |
|-----------------|---------|-----|---------|-----|
| 算数への関心・意欲・態度    | 67%     | 31% | 33%     | 69% |
| 数学的な考え方         | *       | 78% | *       | 19% |
| 数量や図形についての表現・処理 | 93%     | 90% | 5%      | 7%  |
| 数量や図形についての知識・理解 | 69%     | 85% | 28%     | 15% |

| 《2 年 生》         | 到達度 A の割合 |     | 到達度 B の割合 |     |
|-----------------|-----------|-----|-----------|-----|
| 算数への関心・意欲・態度    | 44%       | 65% | 51%       | 33% |
| 数学的な考え方         | 57%       | 66% | 32%       | 33% |
| 数量や図形についての表現・処理 | 74%       | 85% | 25%       | 15% |
| 数量や図形についての知識・理解 | 50%       | 73% | 47%       | 27% |

| 《3 年 生》         | 到達度 A の割合 |     | 到達度 B の割合 |     |
|-----------------|-----------|-----|-----------|-----|
| 算数への関心・意欲・態度    | 63%       | 54% | 37%       | 43% |
| 数学的な考え方         | 57%       | 46% | 41%       | 42% |
| 数量や図形についての表現・処理 | 82%       | 75% | 16%       | 17% |
| 数量や図形についての知識・理解 | 49%       | 42% | 42%       | 51% |

| 《4 年 生》         | 到達度 A の割合 |     | 到達度 B の割合 |     |
|-----------------|-----------|-----|-----------|-----|
| 算数への関心・意欲・態度    | 19%       | 42% | 81%       | 58% |
| 数学的な考え方         | 48%       | 32% | 47%       | 46% |
| 数量や図形についての表現・処理 | 44%       | 41% | 52%       | 54% |
| 数量や図形についての知識・理解 | 66%       | 27% | 31%       | 70% |

| 《5 年 生》         | 到達度 A の割合 |     | 到達度 B の割合 |     |
|-----------------|-----------|-----|-----------|-----|
| 算数への関心・意欲・態度    | 57%       | 56% | 33%       | 32% |
| 数学的な考え方         | 53%       | 39% | 41%       | 35% |
| 数量や図形についての表現・処理 | 59%       | 54% | 35%       | 39% |
| 数量や図形についての知識・理解 | 59%       | 79% | 35%       | 19% |

| 《6 年 生》         | 到達度 A の割合 |     | 到達度 B の割合 |     |
|-----------------|-----------|-----|-----------|-----|
| 算数への関心・意欲・態度    | 32%       | 61% | 64%       | 36% |
| 数学的な考え方         | 28%       | 66% | 59%       | 31% |
| 数量や図形についての表現・処理 | 46%       | 84% | 50%       | 14% |
| 数量や図形についての知識・理解 | 55%       | 60% | 43%       | 37% |

#### 領域別

| A数と計算 | A の割合 |     | B の割合 |     | B量と測定 | A の割合 |       | B の割合 |     |
|-------|-------|-----|-------|-----|-------|-------|-------|-------|-----|
| 1 年生  | 84%   | 86% | 16%   | 13% | 1 年生  | * 82% | * 13% |       |     |
| 2 年生  | 56%   | 71% | 44%   | 29% | 2 年生  | 51%   | * 42% | * *   |     |
| 3 年生  | 63%   | 59% | 36%   | 37% | 3 年生  | 68%   | 54%   | 31%   | 34% |
| 4 年生  | 61%   | 24% | 35%   | 63% | 4 年生  | 53%   | 46%   | 33%   | 46% |
| 5 年生  | 58%   | 51% | 34%   | 45% | 5 年生  | * 48% | * 39% |       |     |
| 6 年生  | 44%   | 69% | 53%   | 30% | 6 年生  | 56%   | 72%   | 40%   | 26% |

| C図 形 | A の割合 |      | B の割合 |     | D数量関係 | A の割合 |       | B の割合 |     |
|------|-------|------|-------|-----|-------|-------|-------|-------|-----|
| 1 年生 | * 91% | * 9% |       |     | 3 年生  | * *   | * *   |       |     |
| 2 年生 | 86%   | 81%  | 14%   | 19% | 4 年生  | 65%   | 57%   | 32%   | 36% |
| 3 年生 | 68%   | 72%  | 25%   | 20% | 5 年生  | * 64% | * 25% |       |     |
| 4 年生 | 55%   | *    | 34%   | *   | 6 年生  | 35%   | *     | 57%   | *   |
| 5 年生 | 61%   | 53%  | 31%   | 38% |       |       |       |       |     |
| 6 年生 | 69%   | 84%  | 27%   | 16% |       |       |       |       |     |

- ・観点別では「算数への関心・意欲・態度」及び「表現・処理」「知識・理解」での成果が認められる。
- ・領域別では「数と計算」「図形」での成果が認められる。

## 2. 今後の課題

(1) 評価カード(シート)をより有効に活用していくための工夫

教師によって評価規準の判断がまちまちでは、C基準の児童に対する指導が不十分になってしまう。そこで、評価カード(シート)に記載する評価基準をより具体的・客観的にし、評価の共有化を図ること。

(2) 子供の自己評価力を高める工夫

子供自身が適切なコースを選択し、自分の能力を伸ばすことができるようにするために自己評価力を高めていくこと。

(3) 指導体制の改善

子供の実態に合わせた習熟度別指導をする際、コースによる人数の偏りをどのように指導に生かしていくかを見極め、指導体制を整えること。

学力等把握のための学校としての取組

(1) 全国標準学力検査(NRT)の実施(2年生~6年生)と結果の分析。(5月)

(2) 学習指導改善調査の実施(4年生~6年生)と結果の分析。(2月)

(3) 単元末テストの実施と結果の分析。(各単元末)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

【平成15年度】

黒埼地区教育協議会

日時... 平成15年6月26日(木)

場所... 新潟市立黒埼中学校

内容... 学力向上フロンティア事業について取組の説明

第1回地域協議会

日時... 平成15年7月7日(月)

場所... 新潟市農村環境改善センター

内容... 学力向上フロンティアスクールにおける研究概要についての説明

1年次中間発表会

日時... 平成15年11月28日(金)(黒埼中学校と共催)

場所... 大野小学校及び黒埼中学校

内容... 授業公開 4年生 算数科「およその数」  
シンポジウム 「学力向上について」

第2回地域協議会

日時... 平成16年2月16日(月)

場所... 新潟市農村環境改善センター

内容... 平成15年度の実践の成果と課題について

【平成16年度】

2年次研究発表会

日時... 平成16年10月29日(金)開催予定

場所... 新潟市立大野小学校

対象... 新潟西地区各小学校及び味方小学校の教職員、保護者

テーマ... 確かな学力を身に付け、生き生きと学ぶ子供の育成(2年次)  
~評価を生かした学習指導のあり方~

1年次の計画及び2年次の計画についてはホームページに掲載し、更新する予定。

(<http://www.niigata-inet.or.jp/ohno-e/>)

次の事項ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】  15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】       6学級以下       7~12学級
- 13~18学級       19~24学級
- 25学級以上
- 【指導体制】       少人数指導       T・Tによる指導
- 一部教科担任制       その他
- 【研究教科】      国語      社会       算数      理科
- 生活      音楽       図画工作      家庭
- 体育      その他
- 【指導方法の改善工夫に関わる加配の有無】  有       無